

2022年7月5日

伊豆半島での地域課題解決型研修プログラム「I-Camp」
2022年度は実施地域を伊東市に加え東伊豆町にも拡大し開催します

静岡県東京事務所
伊豆急行株式会社
東急株式会社

静岡県東京事務所(以下、静岡県)、伊豆急行株式会社(以下、伊豆急)、東急株式会社(以下、東急)の三者は、地域課題解決型研修プログラム「I-Camp(読み方:アイキャンプ)※」(以下、本プログラム)を昨年度に続き、伊東市にて2022年7月より開催するとともに、10月には東伊豆町を舞台としたプログラムを新たに開催します。

本プログラムは、三者が2020年2月4日に締結した「企業研修誘致による地方創生の推進に関する連携協定」(以下、本協定)に基づき開発したプログラムで、昨年度より実施しています。

自治体職員、地域の企業、首都圏の企業など多様なバックグラウンドを持つ参加者が、約4ヶ月計7日間に亘って地域のリアルな課題に対する解決案の共創に取り組みます。

地方側には社会課題の解決支援、産業振興支援、関係人口拡大などの効果が期待され、企業側には社会課題を抱えるリアルな環境を通じて行われる実践的人材育成や、事業創造の機会を得る効果が期待されます。

昨年度は伊東市の「若年人口の流出・減少抑制」をテーマに、首都圏および伊豆地域の5企業計12名と伊東市役所から2名の合計14名が3チームに分かれて取り組み、伊東市長への課題解決案のプレゼンテーションを行いました。

新たな学びや刺激による自己成長や人脈形成の観点から参加者の満足度は非常に高く、伊東市役所からも新たな切り口かつ実現性のある解決案という点など、高い評価をいただき具体化に向けて検討を進めています。

2022年度は、伊東市で「商店街の活性化」をテーマに、首都圏から東日本電信電話株式会社、花王グループカスタマーマーケティング株式会社ほか2社計12名、伊豆地域から三島信用金庫、伊豆急グループの2社計3名、伊東市役所から2名の合計17名が参加し、地域課題解決に取り組みます。また、東伊豆町では「農業の事業継承・後継者問題」をテーマに実施する予定です。

本協定では、本プログラムも含む地方創生(地域活性化や産業振興)に向けた取り組みを引き続き進めていきます。

詳細については別紙をご参照ください。

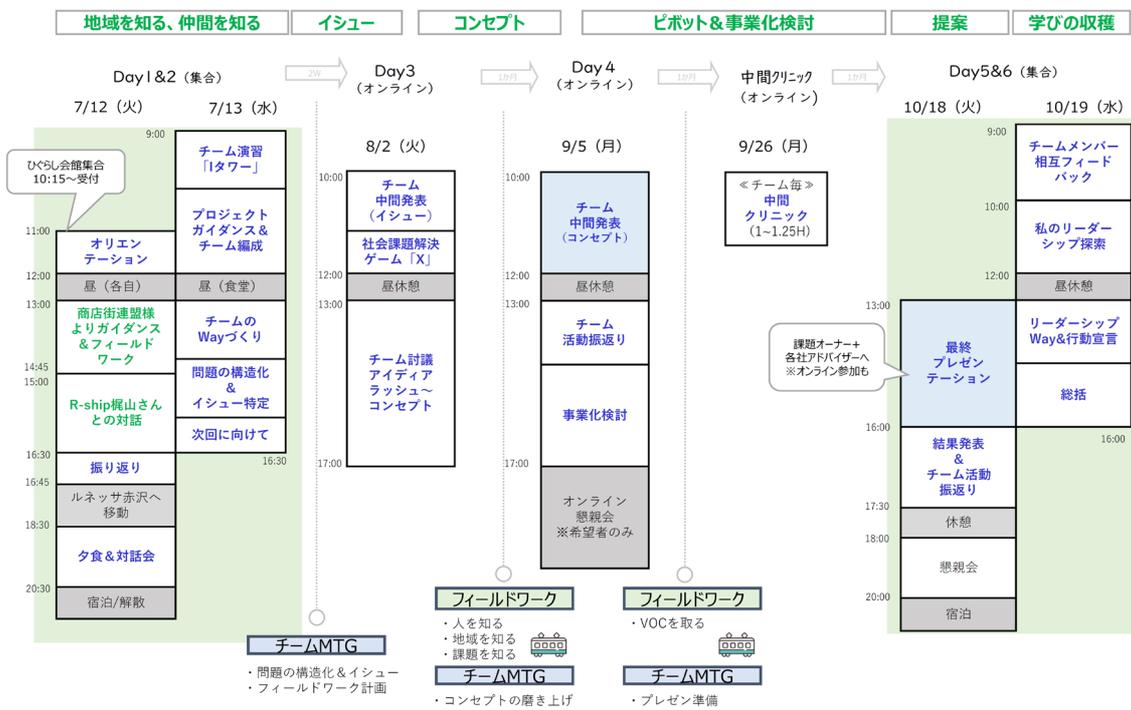
※ I-Campは静岡県、伊豆急、東急、株式会社コンサルティングアソシエイツの共同企画プログラムです。

【別紙】

■2022年度実施概要

【伊東市】

- ・実施期間:2022年7月12日～2022年10月19日(うち計7日)
- ・実施場所:伊東市内(フィールド研修)、及び各企業(オンライン研修)
 ※現地フィールドワークは新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながら開催予定。
- ・参加企業:東日本電信電話株式会社、花王グループカスタマーマーケティング株式会社、
 他首都圏企業2社、三島信用金庫、伊豆急ホールディングス株式会社、
 株式会社伊豆急ケーブルネットワーク、伊東市役所 7社1団体合計17名
- ・研修テーマ:「商店街の活性化」
- ・スケジュール:ワークショップDay1 & 2、5 & 6およびPJT活動のフィールドワークは伊東市内で実施
 Day3、Day4および中間クリニックはオンラインで実施

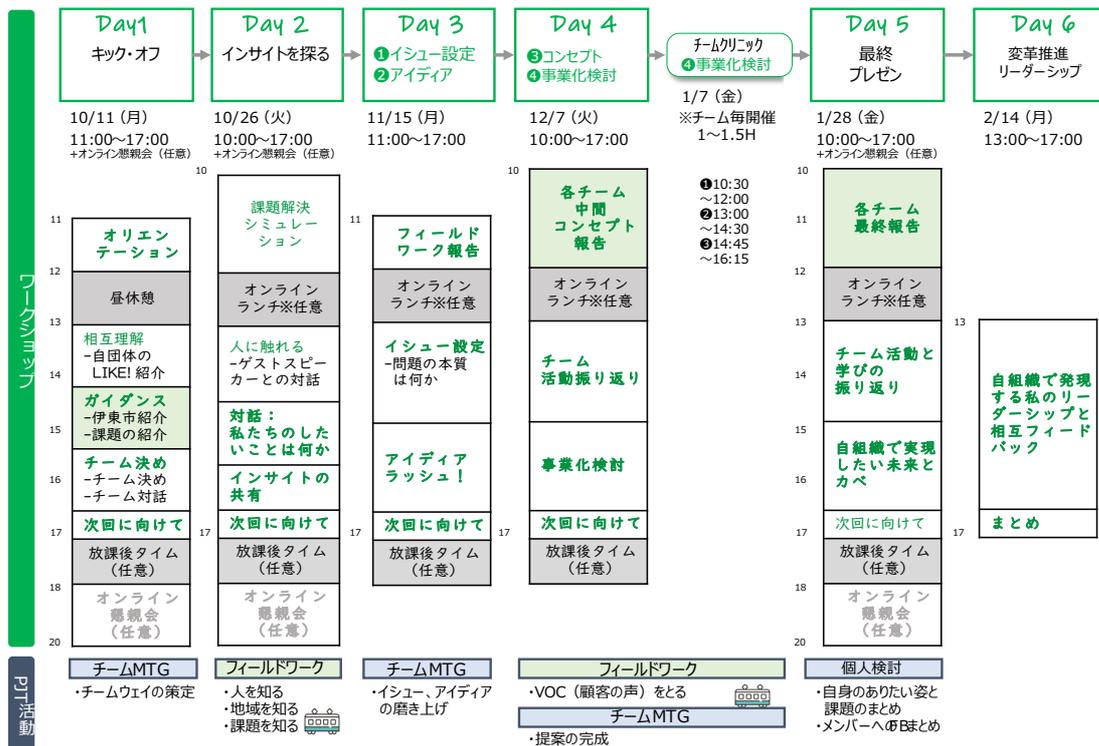


【東伊豆町】

- ・実施期間:2022年10月12日～2023年2月8日(うち計7日)
- ・実施場所:東伊豆町内(フィールド研修)、及び各企業(オンライン研修)
- ・研修テーマ:「農業の事業継承・後継者問題」
 ※その他概要は調整中

■昨年度概要、実績

- ・実施期間:2021年10月11日～2022年2月14日(うち計7日)
- ・実施場所:各企業(オンライン研修) ※伊東市での現地フィールドワークは各チームで実施
- ・参加企業:東日本電信電話株式会社、花王グループカスタマーマーケティング株式会社、他首都圏企業、伊豆急ホールディングス株式会社、三島信用金庫、伊東市役所 5社1団体合計14名
- ・研修テーマ:「若年人口の流出・減少抑制」
- ・スケジュール:ワークショップDay1～Day6およびチームクリニックはオンライン、PJT活動のフィールドワークは伊東市内で実施



・最終プレゼンテーション概要と講評

	テーマ	概要	伊東市様より講評
1	ゆめHug教室	若年層の人口流出の要因から「子育て環境」に着目。特に「伊東市への愛着形成」こそが重要なのでは、という仮説をたて、「伊東市への愛着形成につながる魅力的な校外学習パッケージ」を提案。	<ul style="list-style-type: none"> ・夢があふれている内容で、またこれまでありそうでなかった内容。 ・学童だけでなく、市内の学校側も大いに刺激・励みになる。是非実現してもらいたい ・楽しそうに発表してくださったこともとても良かった。
2	いとう「しごと」づくり	若年層の人口流出の要因として「働きがいのある仕事」に着目。それも単なる「仕事=働く場」とどまらず「私事=自分を磨ける場」、「志事=地域活性化の一員として志をもてる場」として再定義。首都圏の移住希望者と経営課題を抱える伊東の企業とを結びつける提案。	<ul style="list-style-type: none"> ・地元と関係をもちながらリモートワークをしてもらおう、というのが新しい視点で非常に良かった。 ・移住へのハードルを細かくステップに分けて提案してくれたのも堅実で実現性が高く感じられた。 ・移住者のスキルを活用できるのは市としてはありがたい。 ・一方で移住者の志に依存するのではなく、地元企業の志を高めることも同時に必要と感じた。 ・移住者からすると「移住は人生の一大事。ただ仕事であれば良いのではなく、志の発見ができることが大切」という切り口が非常に良かった。地元企業側の啓発も含め両輪でぜひ、やっていきたい。
3	若者×企業のマッチング	チーム3は「ワーケーション」に着目。これまでワーケーションは市外（首都圏）に対して魅力を発信することが当たり前だったが、「 市内の高校生に対してワーケーションを含めた働き方を啓発していくこと 」こそ重要ではないか、と仮説構築。都内のIT中小企業と市内の高校生をイベント等で交流を促すプラットフォームを提案。	<ul style="list-style-type: none"> ・伊東市ではタウンミーティングを行っています、商業高校と意見交換している中で「伊東には働くところがない」というのが本当に切実な意見。 ・今回、伊東市の強みとなり得るワーケーションと組み合わせていただいたことで、伊東市らしい取組みができそうだと感じた。 ・同時に高校生からは「遊びや刺激がない」という声も出ている。そうした理由から都会へ流出すること自体はやむを得ない部分もあるが、刺激のある都会に疲れた後に帰ってこられるような選択肢にもなりえる、良い提案でした。 ・これまでワーケーションは観光の文脈で市外に対して発することが多かったが市内の高校生に向けた発信というところが新しい切り口で非常に良かった ・オンライン化してリモートで大学講義受けるようになった。これからの新たな学び方、働き方につながる。また、高校だけでなく大学生（いったん市外に流出した）もターゲットにでき、発展可能性がありそう。

・受講者の評価



・受講者の声

街づくり・新規事業・リーダーシップ、それぞれで深い学びがあり、感謝でいっぱいです。議論の積み上げやフィールドワークを通じてプレゼンをやり切れたのは自信になった。これまでは個人で考え抜く「思考体力」を重視していたが、今後はチームプレイで考えを積み上げぬく「認識共有体力」を強化していきたい。